



巻頭言

インクルーシブ教育と特別支援教育—附属特別支援学校ベースの教員研修への期待—

筑波大学人間系 准教授 米田 宏樹



「インクルーシブ教育」は、排除のない社会を実現する手段であり、すべての子どもには何らかのニーズがあることを前提とし、その多様なニーズに対応できる教育システムを作るプロセスである (UNESCO, 2005)。「特別支援教育」は、障害のある子どもへの教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつさまざまな人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものである (文部科学省, 2007)。「特別支援教育」が、インクルーシブ教育システムの一般的な手段となる方向性は、今次の教職員免許法改正による小・中・高校等の教員 (通常教育の教師) 養成新カリキュラムによって、より明確になった。コアカリキュラムの一つに、『特別支援教育』が位置づけられたのである。このコアカリキュラムの全体目標は、「通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする子どもが授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、子どもの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する」ことである。さらに、「障害はないが母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの把握や支援」もその内容とされた。特別支援教育は、その対象と方法において広がりをもたされてきている。

この「プロセス・手段としての特別支援教育」では、特別の教育的支援を必要とする子ども一人ひとりに応じた適切な教育的支援を、通常の学級・支援付き通常学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校等の連続性のある学びの場うち、その時点で教育的ニーズに最も的確に 대응することができる場、で行うことが意図されている。通常学級以外の特別な学びの場は、「必要があるときにのみ選択されるものである」という立場が取られている。このようななかで、通常教育の教師が最優先で取り組むべきことは何か。まずは、学級全体への働きかけ方や環境整備の状況を見直し、できるだけ多くの子どもがその学級における学習 (授業) と生活に包含されるようにすることである。すなわち、特別支援教育の視点を取り入れた「通常の教育」の展開である。コアカリキュラム『特別支援教育』は、この「通常の教育」展開力の基礎をなすものとなる。

全体調整された「通常の教育」の結果、個別の支援が必要な子どもたちの数は絞られ、担任教師や補助の教師、特別支援教育支援員等の大人が、その子どもたちに十分なゆとりをもって関わることが可能になる。この個別に提供される配慮や支援は、まさに「特別支援教育」である。通常教育の教師は、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくことを求められている。それでは、特別支援学校教員養成カリキュラムで学んだ「特別支援教育の教師」には何が求められているのか。その子のその時点での教育的ニーズに最も的確に答える教育内容と方法の提案と実施、そして、個別の支援の立場からのカリキュラムマネジメントへの参画である。特別な学びの場としての筑波大学附属特別支援学校群は、ニーズのある子の学びを支える強力な選択肢の一つたる指導力を維持し向上させなければならない。

附属学校群の教育力を基にした教員 (実習) 研修は、通級・特別支援学級・学校の特別支援教育の教師力向上は無論、通常教育教師の「通常の教育」展開力の育成にも資するものを期待したい。

特別支援教育の充実を目指して



HPをごらんください。

特別支援教育連携推進グループは、附属特別支援5校の専門性の相互活用や協働、並びに筑波大学障害科学域との連携を図りながら、特別支援教育に関わる教員研修、連携・コーディネート、理解啓発、広報活動を行ってきました。今年度の取組の一部を報告します。

特別支援教育に関わる教員の資質向上を目指した教員研修

- 免許法認定公開講座（7月23日～8月3日）
今年度は、延べ460人が特別支援学校教諭免許状の4領域における一種・二種免許状に必要な単位の講座を受講しています。
- 特別講演（9月29日 約90人参加）
テーマ「特別支援教育の今日的課題と特別支援学校への期待」
- 特別支援教育研究セミナー（3月27日開催予定 人間系リサーチユニットとの共催）
講演、附属特別支援5校のポスターセッションによる研究交流
- 教員研修に関する情報収集、先行研究のまとめ
「文部科学省中央教育審議会答申・報告にみるインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育教員研修の動向」筑波大学教育論集投稿（2019.3発行予定）

国内外で活用される教材・指導法データベース



スマートフォンで見やすくなりました。

- 年間総アクセス数 39,076件（2018.4.1～2019.3.7）
- モバイル対応化
- 教材・データベース常設展示コーナー設置（文京キャンパス480教室）
- 海外からのアクセス（アメリカ、フランスなど47か国）

【各校の教材で、アクセス数の多いもの】



視覚：
定規セット



聴覚：発音学
習教材【ストー】



大塚：動作語
絵カード



久里浜：手作り
たんばりん



桐が丘：カット
アウトテーブル

お知らせ

実践力重視の現職教員研修が始まります。

於：筑波大学附属特別支援学校及び東京キャンパス文京校舎

2019年度より、附属視覚特別支援学校、附属聴覚特別支援学校、附属大塚特別支援学校（知的障害）、附属桐が丘特別支援学校（肢体不自由）、附属久里浜特別支援学校（知的障害を伴う自閉症）の5校をベースに受け入れ型の現職教員研修を再開します。

本研修では、実践力に優れた教員の養成をめざして附属特別支援5校における実習型研修、演習の他、筑波大学人間系障害科学域教員等による講義を組み合わせた研修プログラムを準備しています。

2020年度研修生の1次案内は6月、2次案内は11月を予定しています。

附属特別支援学校の実践

「テレワーク」型職業体験 ～附属桐が丘特別支援学校の取組～

桐が丘特別支援学校に通学している生徒の中には、通勤したくても体力的・障害的に難しい、能力はあるのにバリアフリー環境が整っていないなど物理的制約で仕事に就けない、いわゆる『職業的障害』を持つ人がいます。そこで、当校では、職場に行くのではなく、職場がやってくる…という在宅雇用制度を応用した職場実習（「テレワーク」型の就業体験）を取り入れています。

この「テレワーク」型の就業体験先として受け入れていただいている置き電気グループの特例子会社（株）沖ワークウェルでの実習について紹介します。

※（株）沖ワークウェル <https://www.okiworkwel.co.jp/>

この実習では、同社が開発したワークウェルコミュニケータ（略称 WWC）という在宅就労支援システムを用います。WWC は、音声に特化した多地点・双方向のコミュニケーションシステムであり、パソコンとマイク・スピーカーさえあれば、自宅で社内のだれとでも日常的な業務連絡ができ、急な打ち合わせや会議も開くことができます。



WWC に接続している社員の名前が一覧になっています。

社員は基本的には「共用」で各自業務を行い、必要があれば、左の「会議室 1～9」の部屋に移動して個別の打ち合わせを行います。

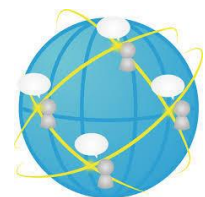
WWC 起動画面

見えない相手との言葉でのやり取りは、高度なコミュニケーションスキルが求められるため、通勤型の働き方とは異なる大変さもあります。生徒たちは通勤型、在宅型のそれぞれを知ること、将来の選択肢の幅を広げていきます。

今後、テレワークが広まり、当たり前な働き方になれば、『職業的障害』は解消していくかもしれません。



マイク兼スピーカー。この機械を通じて全国の社員の方々と意思疎通を図ります。



実習の様子



特別支援教育研究セミナーのご案内

- 【期 日】 2019年3月27日(水) 9:30より受付開始
- 【内 容】 10:00~10:10 開会の挨拶
 10:00~12:10 講演 「Practitioner Training Based on Evidence - based Practice
 (エビデンスベーストアプローチに基づく教員研修)」
 講師：オハイオ州立大学 Matthew E. Brock 博士
- 13:20~14:20 ポスターセッション
- 14:30~15:00 事業報告
- 15:00~15:30 閉会の挨拶
- 【場 所】 筑波大学附属中・高等学校 桐陰会館
- 【共 催】 筑波大学人間系インクルーシブ教育システム開発リサーチユニット
 筑波大学特別支援教育連携推進グループ
- 【申込先】 mail : snerc@human.tsukuba.ac.jp FAX : 03-3942-6938



【2019年度 研修・セミナー等のお知らせ】

●免許法認定公開講座 【7月22日(月)~8月2日(金)】 於：筑波大学東京キャンパス

文部科学省は、2020年までの間に、おおむね全ての特別支援学校の教員が当該校種の特別支援学校の免許状を所持することを目指しています。

本講座では、特別支援学校教諭免許状の視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者の4領域の一種、二種免許状を取得することができます。

【受講対象】 幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教諭普通免許状を有し、国公立学校に勤務する教員（非常勤講師等を含む）で、特別支援学校教諭免許状を取得しようとする方

【申込締切】 2019年6月上旬予定

●公開講座 【8月22日(木)】 於：筑波大学東京キャンパス

「特別支援教育における子どもの見立てと教材・指導法の基礎」

障害のある子どもの実態把握と指導法の基礎について、附属特別支援学校で活用している教材・指導法を用いた演習（教材づくり、指導法体験等）を交えながら分かりやすくお伝えします。

【受講対象】 幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校教員等

【申込締切】 2019年7月11日(木)

申し込み方法は、HPをご覧ください。 <http://www.tsukuba.ac.jp/education/extension/>

問合せ先：筑波大学東京キャンパス事務部企画推進課

TEL:03-3942-6572 FAX:03-3942-6339 E-mail:fk.gsenka@un.tsukuba.ac.jp

●特別支援教育研究セミナー

9月と3月に開催予定

※詳細が決まりましたら、ホームページ等でお知らせいたします。



編集後記



今年度も残すところあとわずかとなりました。この時期は、修了、卒業、就職、進級、入学、また異動など多くの出会いと別れを経験します。これまでの出会いに感謝し、4月からの出会いに期待を膨らませていきます。今後ともよろしくお願ひします。

発行：筑波大学特別支援教育連携推進グループ
 (社会貢献準備会)

112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

TEL : 03-3942-6923 FAX : 03-3942-6938

<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>

mail : snerc@human.tsukuba.ac.jp